

大正六年七月五日發行

婦人と子ども

第十七卷

第七號

フレールベル會

第十七卷第七號目次

| | |
|----------------------|------|
| お舟のゆくへ…………… | 谷津直秀 |
| 傳染病を媒介する動物…………… | 稻垣知剛 |
| 水泳の効果はどの位あるか…………… | 土川五郎 |
| 七不思議を読む…………… | 徳永恕子 |
| 貧兒保育の話(二)…………… | 村尾節三 |
| 孟蘭盆の話…………… | |
| 廻町幼稚園 蓄音機の利用…………… | |
| に於ける…………… | |
| 第二十四回京坂神三市聯合保育會…………… | |
| 同會提出遊嬉の歌曲…………… | |
| 雜錄…………… | |

本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレール會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正六年七月四日印刷納本
大正六年七月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 東京市本所區番場町四番地
印刷所 東京市本所區番場町四番地

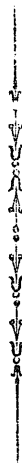
發行所 フレール會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

顧問 高島平三郎先生

コドモ

本誌の四大特色

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。



まじめで教育的なこと
繪が叮嚀で美麗なこと
お話が易しく面白いこと
片假名のみで讀易いこと

□ 定價一冊十二錢

□ 郵 税 五 厘

□ 六冊郵税共六十九錢

□ 十二冊一圓三十一錢

□ 總て前金の事

合 本 定 價

各集郵税共五十錢

東京市小石川區
林町五十七

コドモ社

電話番町六一八
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より

同 三年十二月號まで

大正四年三月號より

同 四年六月號まで

大正四年七月號より

同 五年十二月號まで

大正五年六月號より

羽仁とも子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで読む間に、頭腦をよくし感情を高尚にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定額 一十一年半 郵税 十錢 冊價 六錢
東振替 一六一六 〇〇番 谷司雜社 婦人之人友社

もど子と人婦

第七卷第七號

大正六年七月五日

お舟のゆくへ

河は黒んで流れてる、

堤の砂は金の色。

兩手の岸に樹を列べ、

河は何時でも流れてる。

青い木の葉が浮かんでる、

池のお城が浮かんでる、

私のお舟が浮かんでる、

みんなのお家は何處にあら。

川は休まず流れてる

水車の小屋を通り抜け

谷をくぐつて下へゆき、

小山を越えて下へゆく。

川は流れて下へゆく、

百里も流れて行つたなら、

よその小さな子供等が

私のお舟を拾ふだろ。

傳染病を媒介する動物

(フレイベル會六月例会講演筆記)

理學博士 谷 津 直 秀

私は豫てより、何時か斯の種の會合に於て、今日お話しするやうなお話を申上げてみたいと思つてゐたのであります、ところへ安井さんから、今度出て一つ話して見てくれんかといふ御相談がありましたので、實は喜んでお引受をいたし、本日罷出た次第であります。

却説、「傳染病を媒介する動物」と申しましてもこれは却々種類が多いのでありまして、これを一々系統的にお話するなぞといふことは短い時間では出来ない仕事であります。そこで今日は傳染病を媒介する動物の内直接我々に關係のあるものゝみに就て二三お話ししてみたいと思ふのであります。

一體傳染病といふものは、種々の原因によつて

起るものであります。その原因となるものは下等な動物や植物即ち細菌でありまして、中には肉眼は無論のこと、顯微鏡を以てしてさへも、その姿を認知することの出来ないものなぞがあります。

傳染病とは如何なぞと申して、傳染病の定義みたいなものをこゝで研究することはやめます、世間で普通に呼び慣はしてゐる傳染病、その傳染病のことに就て申上げるのでありますから、あなたが傳染病といふ言葉を學術語として取扱つて、この定義から始めて行かなくともよろしいであらうと存じます、さて、この傳染病を傳へる動物に三種類あります、これは病氣を傳へる傳へ方の違ひから三つに分けたのであります、先づ第一種のもの他から病原體を自身の體内に得來つてこれ

を己れの身體で多少變化した後他に傳へるのであります。第二種のもは特別な動物の體内に入り次ぎに人の體内に入つて病氣の原因となるのであります。第三種のもは如何なる病氣でも傳へるのであります。

第一種と第二種とは専門的に、ある病氣を限つてこれを人に傳染せしむるのであります。第三種は如何なる病氣でも人に傳へるのであります、どれもこれも人間に取つては甚だ迷惑な、危険な媒介をしてくれるのであります。

さて第一種のものゝ内で、代表的なものは蚊であります。蚊はマラリヤの傳染を媒介するのであります。マラリヤといふのは伊太利語で「悪い空氣」といふ意味であります。伊太利人はマラリヤの原因を沼から發散する悪い空氣に歸し、この毒にあてられて病氣になるものと思つたのであります、それで伊太利人は夜、窓を開けたまゝ、寢に就くことを致しません。何故ならば伊太利人は夜の

空氣をマラリヤと思つてゐるからであります。この戸を締めて寢るといふことが自然と蚊の入つて来るのを防ぐことになりました、伊太利人はマラリヤの原因を誤解してゐながらも、その傳染を豫防することが出来てゐたのであります。このマラリヤを傳へる蚊は特別な一種の蚊であります。日本に知られてゐる蚊は三十四種ありますが、その内の一種がマラリヤを傳へるのであります。この蚊は町中には居ません、郊外又は郊外に近いところに居ます、東京で言へば山の手から郊外の方にかけて居ります。これは翅に斑紋のある蚊でありまして、「ハマダラカ」と呼ばれて居ります。沼や田畝に發生するのでありますから、沼や田畝の附近に一番多く居るわけであります。東京には幸にこのハマダラカは尠いやうであります。尤もハマダラカでありさへすれば何でもマラリヤを傳へるといふわけではないのであります、前にマラリヤの病人を刺したことのあるハマダラカが他の人

を刺すと傳染するのであります。マラリヤ患者の多い北陸の方へ行くと、このハマダラカが却て多いのであります。東京では今のところマラリヤ患者も尠し、ハマダラカも尠いのでありますから、

マラリヤに關しては稍、安心であります。マラリヤは瘧又はおこりと言ふ病氣であります。熱が出て随分苦しむのでありますが、これがために生命を奪はれるなどといふことはないであります。しかし臺灣や其他熱帯の地へ行きますと人がこの病のために斃されるのであります。伊太利の南部へ行きますと宏漠な原野があります、今この原野となつてあるところは往昔は町があつたところなので、マラリヤのために人々が死絶えて、町が原野となつて了つたのであります。規尼涅^{キニエ}を飲んで置けばマラリヤに罹ることはありません、又一旦マラリヤに罹つたなら規尼涅を用ゐさへすれば全癒するのであります。蚊の媒介で傳染するものにもう一つフィラリヤといふ病氣があります。この

病氣に罹ると手足が非常に膨れて來ます、日本では南部地方、九州天草邊へ行くと随分この病氣の患者があります。

蚊で傳はる病氣がもう一つあります。しかしこの病氣の患者は幸ひに日本にはまだ一人も出て居ません、蚊だけは居るのでありますが病人がゐませんから別に心配は要らないのであります。その蚊はステゴニヤといふ蚊でありまして、日本では琉球縞蚊と稱んで居ります、琉球、小笠原島、臺灣の一部等に棲息して居ります、これに刺されると黄熱といふ病氣が傳染するのであります、しかし前に申しました通り日本には未だこの黄熱の患者は發見せられないのであります。

巴奈馬運河の沿岸地方にはいろいろの蚊が澤山居りまして、種々の病氣を傳染せしめて居ります。それですから巴奈馬運河が開通すると日本へこの地方のいろいろな病氣が蚊と共に輸入されることになるかも知れませんが、それで英吉利では日本へ

いろ／＼の病氣を殖さしては氣の毒であるといふので、病氣を傳染せしめるところの蚊が日本に居るか何うかを研究し始めました。英吉利のこの研究に刺戟されて日本でも近頃急に蚊の研究を始め出したのであります。

もう一つ専門的に、ある病氣を限つて傳染せしめる動物の種類があります、それは黒死病を傳る蚤であります、全體蚤には八種ほど種類がありますが、その内で鼠に附くのが五種あります。マラリヤの場合には病氣が蚊の體內に入つて、それから人に來ると傳染するのであります。それですからマラリヤ患者の血液に直接に他の健康體の人の身體に移し入れてもその人はマラリヤ病になるやうなことはありません。黒死病の場合はこれと趣きを異にして居りまして、病氣は蚤の身體を通り抜けるだけに過ぎないのであります、故に黒死病は蚤の媒介を経なくとも傳染することがあるのであります。虱は發疹室扶斯の傳染を媒介します、故

にこの病氣は比較的下層社會に多いのであります。大正三年には東京中でこの病氣に罹つたものが三千三百八十七人、内死亡者が六百五人でありました。大正四年にも四十一人死亡し、五年にも六十五人死亡して居ります。虱の研究は最近英吉利に於て頻りに試みられて居ります。これは英吉利の軍人が獨逸や佛蘭西へ行つて虱に攻められて困るからであります、而してこの研究の結果は先頃發表せられました。

蠅類も種々の病氣の傳染の媒介となります。蠅の傳染せしめる病氣は黒死病などと違ひ、特に蠅に依つてのみ傳染するといふのではなく、たい手で患者から他の人へ移しても傳染するのであります。それ故蠅の媒介は専門的ではありません。しかし専門でなければに又反つて困るのであります。英吉利で用ゐられてゐた五十年許前の小學校の教科書には「蠅は空氣を清潔にする功能がある」と書いてあり、ラスキンも亦蠅のことを

「空中の女王」などと云つて居りますが、蠅は實に人間にとつては迷惑な動物なのであります。前のマラリヤの蚊や何かは尤も尠く又その傳染の媒介も非専門的でありましたからまだ始末がよろしいのですが、この蠅と來ると到る處に群れ飛んでゐて數も多く何でもござれに病氣を傳染せしめるのでありますから實に始末に了へないのであります。

蠅の傳へる病氣は窒扶斯、バラチフス、虎列刺、赤痢、トラホーム、癩病等であります。是等の内で最も恐るべきものは窒扶斯でありまして、大正五年には東京中に二千百六十六人の患者が生じ、内五百六人が死亡しました。一〇〇〇〇〇人に對して二二、一人の窒扶斯患者が生じたことになるのであります。紐育では大正四年に一〇〇〇〇〇に對して一二、四人でありました。それより十六年前の一九〇〇年には三五、九人でありました。紐育では非常に衛生に努めて蠅を退治しましたので、

十六年の間に窒扶斯患者をこんなに減少せしめ得たのであります。伯林は非常に尠く、〇、二人しかありません。

それから赤痢であります。これも却々恐るべきものでありまして、大正五年には東京市中で七百八十一人が赤痢のために死亡しました。

肺結核も亦蠅と關係があります。即結核患者の痰を蠅が舐り、翅や脚に痰をつけて、食物の上や何かに停り、傳染の媒介を致しますから、實に危険であります。日本には肺病患者が非常に多いのであります。明かに肺病患者と認められるものを肺病患者の中でも火事のやうなものとするれば、はや小火にあたるやうな肺病患者は實に多いのであります。他の病氣で死んだと言はれるものもよく調べてみると大抵肺病に罹つてゐるのであります。百人の中八十幾人、ざつと九十人ばかりは皆何かの拍子で直ぐ肺病患者になるやうになつて居るのであります。即ち身體が弱くなるとか、勉強しす

ぎるとか、心配をしようとかすると直ぐに肺病に罹つて了ふのであります。これは子供の時分、何時か知らぬ間に結核のバクテリアを噛めたことがあるために、これが長く体内に止まつてゐるのであります、而して機を見ては暴れ出さうとして待つて居るのであります。

肺病のために東京では一年に六千人位づゝ死に日本全国では一年に八萬人位づゝ死ぬのであります。殊にこの節は子供に肺結核が多くなつて來ましたのは實に憂ふべきことであります。

窒扶斯、赤痢、疫痢等の腸の病氣で死ぬものは日本全国で、一年に十萬人近くあります、尤もこの内には子供の腸加答兒なども加へてあるのであります、十萬人といふのは實に太した人數であります。日清戦争の時には日本の兵士が一萬四千人戦死し、日露戦争の時には九萬人戦死しました。兩度の役に於ける戦死者の總數は十萬四千人程となるわけであります。腸の病氣で年々死ぬ人の數

と略ぼ同數であります。こんなに多くの人が死ぬ原因には蠅が餘程手傳ひをして居るのであります。蠅を退治れば病人も餘程減るのであります。

家の中へ飛んで來る蠅は八種ばかりありますがその内が一番多いのは家蠅であります、家の中で蠅を百匹つかまへてみるとその内四五匹を除く外は皆家蠅であります、蠅はすべて悪いはたらきをしますが、中にも銀蠅は殊にいけません、銀蠅は好んで肉類の上へたかります。刺身の上などへは直きに何處からかやつて來て群るのであります。

昨年虎列刺が流行した時、魚類を食べぬ人が澤山ありました、あれは疳違ひでありまして、魚は煮て食へば少しも差支ないのであります、生で食へれば魚に限らず何でも危険であります。虎列刺菌も窒扶斯菌も煮て了へば害は爲さないのであります。バクテリアの死骸を食べても病氣になることはありません。

蠅は塵芥の中に湧きます、故に塵芥溜や厩の附

近は特に注意して清潔にして置かなければなりません。煙の揚つて居るところには火があると同じやうに蠅の飛んでゐるところには何か不潔物があつるに相違ないのであります、それ故に市内に蠅の多いといふことは市民の恥辱であります。

蠅の卵は小さくありますが、白色でありまして吾々の眼で見ることが出来ます。この卵は八時間ばかり経つと孵化して蛆となります、この蛆は二度ばかり皮を脱いで、今度は動かぬ蛹となつて、土の中へもぐり込んで了ひます。それからしばらく経つと蛹となつて空中へ飛び上つて行くのであります、卵から蛹になるまでには凡そ半ヶ月ばかり掛ります、この飛び出した蛹は五六日経つと卵を産み始めます、蠅の一生は一ヶ月ばかりで冬を越す蠅もありますが、この間に四回か五回卵を産みますから、その繁殖力は實に大きく、一匹の蠅から忽ち何億といふ蠅が出て来るわけでありまして、しかし實際にはいろいろの妨げに遭ひますので、

それほど澤山にはならないのであります。

蠅が硝子窓や電球にたかると、その部分がすぐ曇ります、これと同じやうに吾々の顔や唇や乳首に蠅がとまれば矢張曇りが附くわけでありまして、それをうつかり舐めたりすると病氣に罹ることがあるのであります。

蠅の害を防ぐには何うすればよいか、これには蠅を殺すのが一番いゝのであります、家の周圍をよく清潔にして蠅を蛆の内に殺して了ふとよろしいのです。もう一つは食物や食器の上に蠅のとまることが防ぐことが必要です、それには食物や食器の上に蔽ひをして置くのです、又物は煮立てを食べることに決めて置かなければなりません、焼くことの出来るものは何でも焼いて食べるやうにすることも必要であります。それから又蠅が病人に接近することを防がなければいけません、これには日本の建築ですと一寸困難ですが、兎に角、蠅を家の中へ入れない方法を講じなければいけません。

せん。蠅を取る方法はいろいろありますががどの方法によつてもいゝのであります、しかし叩いて殺すのは蠅の身體を押し潰すので種々の微菌が疊の上や壁の上に附着する怖れがありますから避けた方がよろしいのであります。理髪店で機械を消毒するに用ゐるフォルマリンが蠅取りには一番よろしいでせう。フォルマリン一、水九の割合の混合液を鉢の中に満して置きます、而してこの液の表面に、麩か麵麩の碎片を浮かして置きます、さうすると蠅は、フォルマリンの匂ひを好みますので自分からこの液の中に飛び込んで死んで了ふのであります。牛乳と水とを半々にして、それにフォルマリンを少々垂らしてもよろしいのであります、割合はフォルマリン一、水八、牛乳八でありますそれから、又フォルマリン一、酢九の割合の混合液に砂糖を少し加へたものを用ゐてもよろしいのであります。蠅を卵か蛆の内に殺して了ふには、粗製礬砂を塵芥の中に振り撒くと効があります、

六斗程の塵芥でしたら一ポンドの礬砂を振りかけたら十分であります。礬砂一ポンドを一斗二升位の水に溶いて、塵芥に掛けても効があります。漂白粉も蠅の驅除に應用することが出来ます。大連では蠅取りを奨励して、蠅一合を三錢づゝで買上げて居ります。何しろ蠅取りなどといふことは一人でやつても駄目な仕事でありますから、大勢氣を揃えてやらなければいけません、大勢で蠅退治をやれば直きにこれを全滅さして了ふことが出来るのであります、さうすれば傳染病の流行も今よりずつと尠くなるのであります。今から七八年前、米國の華盛頓で大舉して蠅退治を行つたことがありました、その翌年には腸の病氣を患ふ者が殆んどなかつたといふことであります、その他町の町でも法律や貼札や講演や活動寫眞によつて蠅の害と驅除法を一般に悟らしめて、効を奏した話が澤山あります。

蠅を殺す。こんな些細な行ひが多くの人々の死ぬ

のを助けるのであります、どうか皆さんも蠅取りを御勵行下さり、尙他の人々にも蠅取りをお勧め下さるやうにお願いします。

これから暑中休暇になりますと、山の中や海の近くへ避暑においでになる方もありませうが、何處においでになつても、よく御注意なさつて、身體を大切になさることを望みます。私の友人の息子は先年の夏、房州へ行つて赤痢に罹り、東京へ連れ歸ることが出来なくて、到頭彼地で死なせて了ひました。それですから田舎へ行つても却々油断は出来ないのであります。殊に夏は手や足が外部へ出て居りますので、いろいろの微菌がこれに何時の間にか附着して居ります、これがうつかりと口の中へ入らうものならば直ぐに病氣になるのでありますから餘程注意しなければなりません。殊に子供はいろいろのところに觸りますので、必ず手を洗はせてからでなければ物を食べさせないやうな習慣にして置くとうよろしいのであります。

手を洗はうにも水が無い場合、若しくはあつても不潔らしく見えるやうな場合には、九〇パーセント位のアルコールで手を拭ふとよろしいのであります、普通のアルコールでもよろしいのであります、なるべくは度の高い、今申した九〇パーセント位のもので拭ふのが一番よろしいのであります。懐爐みたいな容器の中にアルコールの小瓶とこれをつけて塗るための竹の楊子とを藏めて置いて、始終これを携帶して居り、手を洗ふやうな必要が起つたならば、竹楊子で掌の内外へよくアルコールをなするのです。さうすれば忽ち乾いてしまひます、乾けばもう舐めても大丈夫であります今申しました懐爐式の容器の中には尙ヨヂエウムなども藏めて置くと、いろいろ便利なことが多からうと思ひます。何處かの商人が以上の三品位を備へて夏季衛生何とかとでも命名して賣出してくると都合がいゝと思ひます。まだお話し申すことも多少残つて居りますが、長くなりますので、今日はこれに止めて置きます。(文責在記者)

水泳の効果はどの位あるか

深川尋常小學校長

稻垣知剛

▼二十三日に體量七十四匁の違い
▼幼稚園を出た者は一層よい▲

暑苦しい夏が近くなつて來た、而し發育盛りの兒童にとつては之が別に苦痛とも見えない。殊に海に河に水泳を行ふ事の出來る者の爲には夏は何季よりも愉快な時である。彼等には此の季節が餘りに短少に感ぜられるのである。

されど此の兒童に最も好まるゝ水泳が、身體發育上眞に効果があるか、或は有害なものであるかといふ點について統計的に研究せられたものゝ殆ど見られないのは遺憾である。我が深川小學校は昨年七八兩月に渡る水泳を行へる兒童と、水泳を行はざる兒童との身體發育の比較をして見た。水泳期の近づける今日之を發表するのは必ずしも徒

爾であるまいと思ふ。(以下言葉の煩雜を避くる爲水泳を行へる兒童を水泳者、水泳は行はざる兒童を不水泳者と稱へることにする。)

水泳、不水泳者の體量比較

我が校は水泳を行ふ前の七月一日に、校醫山本氏に依頼して四學年以上の全兒童につき身長・體重・胸圍・其の他の疾病等の検査をなし、九月の初に同様の検査をした。中にも水泳者には詳細の検査を行ひ、水泳が身體上害ありと認めらるゝ者は水泳を思止まらしめた。此の水泳を停止せられたる兒童が多數ある場合には、統計比較上水泳者が已に優秀の體格を有せりといふ缺陷を生ずる憂が

あるけれども、水泳を停止せられた者は僅かに眼疾或は中耳炎を患へる者の五名に過ぎなかつた。

且又水泳者・不水泳者の数は、前者の百四十七名後者の百六十二名であつて、其の數に大差のないのは最も好都合であつた。凡そ水泳の是非を考究^x

^xせんとするには、體育上・德育上種々なる方面より研究すべき必要があるけれども、茲では單に身體の發育如何を數によつて示し易い體量の増減のみを記すことにする。

水泳・不水泳者六十日間體量比較表

| | 總計數 | | 一人平均數 | |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|--------------------|
| | 水泳者 | 不水泳者 | 水泳者 | 不水泳者 |
| 人員 | 一四七 | 一六二 | 一 | 一 |
| 水泳日數 | 三四〇九 _日 | 〇 | 二三・二 _日 | 〇 |
| 七月一日體重 _斤 | 一〇三二・三三〇 _斤 | 一〇八六・六七〇 _斤 | 七〇・二三 _斤 | 六七・〇八 _斤 |
| 九月一日同 | 一〇五六・四二〇 _斤 | 一一〇一・二八〇 _斤 | 七・一八六 _斤 | 六・七九八 _斤 |
| 六十日間増量 | 二四・一二〇 _斤 | 一四・六一〇 _斤 | 一六四 _斤 | 九〇 _斤 |

之によつて見るに七月一日より八月末日までの日數六十日間に實際水泳を行つた日は、昨年が平年より雨天・濁水の多かつた爲、平均二三・二日に過ぎなかつた。此の二三日間も設備と人員の關係上實際に水泳を行へる時間は理想よりも少かつたのである。然るに水泳者は僅か六十日間に不水泳

者よりも體量が七十四匁多く増加してゐる。若し設備を一層よくし、天候が平年の如き場合には、其の効果が更に大なるべしと信ずることが出来る。

●幼稚園の保育を受けた者は

特に發育の成績がよい

此の度の體量検査に於て、偶然にも小學校入學前に一箇年乃至二箇年の幼稚園の保育を受けたる者は保育を受けざる者に比較して、其の發達の割合が特に佳良なることを發見した。次に幼稚園の保育を受けたる者について表に示して見よう。

| 人 員 | 總 計 | | 一 人 平 均 數 | |
|-----------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------|----------------------|
| | 水 泳 者 | 不 水 泳 者 | 水 泳 者 | 不 水 泳 者 |
| 水 泳 日 數 | 一 二 四 入 _日 | 〇 | 二 五 〇 四 _日 | 〇 |
| 七月一日體量 _(匁) | 三 四 五 〇 七 六 〇 _匁 | 二 六 七 〇 五 三 〇 _匁 | 七 〇 五 六 _匁 | 七 〇 〇 四 _匁 |
| 九月一日 同 | 三 五 六 〇 六 六 〇 _匁 | 二 七 四 〇 三 五 〇 _匁 | 七 二 七 八 _匁 | 七 二 一 九 _匁 |
| 六十日間増量 | 一 〇 〇 九 〇 〇 _匁 | 六 〇 八 二 〇 _匁 | 二 二 二 _匁 | 一 七 九 _匁 |

此の表によれば幼稚園修了者は不水泳者に於ても全體の九〇匁に對する一七九匁といふ著しく良好なる發達を示し、水泳者に於ても一六四匁に對する二二二匁といふ好成绩を見ることが出来る。

其の原因は一般に家庭の生活状態に於て、幼稚園修了者が他に比して幾分か餘裕あり、規則的であることによるのも確であらうけれども、一面幼稚園保育の効果が與つて力あることを信じなければ

ならない。

東京市の如く戸口が稠密で、児童遊歩の場所が狭く、小學校入學前の幼児にとつて、日中の遊歩に困難なる土地には、幼稚園の如き機關が幼児に與ふる効果の大なるべきはいふまでもない。特に心身發育の最も旺盛なる學齡前に理論と實際とによつて理想的に幼児を發育せしめんと研究努力しつゝある幼稚園保育の効果は、多くの家庭が別に何等の案を具ふることなく放任しつゝある今日の家庭教育の状態にありては、其の効果確に大なるものである。

而して幼児期に受けたる良効果は一生を通じて其の効を表はし、保育修了後已に數年を費したる今日に於ても、猶斯くの如き良結果を見ることが出来るのである。之は單に體格の上のみでなく學業成績の上に於ても見ることが出来る。問題が少しく横道にはいるが、我が校は幼稚園保育修了者と、保育を受けざる児童と約半數づゝより編制したる學級を同一教師に擔任せしめ成績の優劣を毎

學期比較せしめてゐる。これによれば大抵の學科に於て十點法の採點法により、前者は常に一點強の優秀の成績を表はしてゐる。此の統計は教師の異なる場合に於ては、採點比較上の誤りを生ずるけれども、同一教師の同一方針による教授に於て差異あるは、其の原因の一部が幼稚園保育の効果であるに相違ない。

●水泳による害は如何程なりしか

水泳後即ち九月に於て、水泳兒童の様子を見るに、不水泳者に對して體量の増加を示すのみならず皮膚の色黒く、元氣旺盛に見られた、此の點は誰にも特に比較して見なくとも斯く想像されることであるが、其の半面最も心配さるゝのは、水泳による疾病・外傷・精神的悪影響等である。然るに百數十名の兒童中水泳によつて害を蒙りたりと認めらるゝ者は殆どなく、僅に其の中の二名が足部に貝殻の爲負傷し入水を中途に禁じたに過ぎないで、之も間も無く回復した要するに水泳は或る特殊の兒童を除く外効果大なりと認むることが出来る。

七不思議を讀む

麴町幼稚園 土川 五郎

本年の一月以來本誌に連載せられた七不思議は中々物議を起して居る様である、みなと君は夢物語として掲げられたのである。吾人は其夢ならん事を祈るのである、併し吾人の見聞する所と對照して見ると當つて居る所もある様である。何れの社會でも其裡面に弊害はあるが教育界は其最も少なきものである。保育界の裡面之れに伏在する弊害も少ないには違ひないが、七つ位は廣い日本にはあることと思ふ。私はみなと君と感を同じくする點が多い。この關係からこの記事を精讀した。

みなと君もこれは座興に書かゝれたのではあるまい。讀者も亦これを一笑にのみは附して平然として居ることは出来まいと思ふ。

私も此の記事を極めて眞面目に讀んだ一人であ

る。そこで茲にいさゝか所感を述べることにしたのである。

(一) 動機

どうして保姆となつたか。保育に従事する様になつたのはそもゝ如何なる事に基いたのであるか。

七不思議の第四に公園の立ち聞きとして掲げられたのはそれであつた、自活の必要から。試験がやさしいから。仕事として樂であるから、時間が短いから。小學校を云はゞ淘汰せられた落ち込み所に都合がよいから。他の人にすゝめられたから。子供が好きだから。面白さうだから。清く高尚だから。幼児時代の教育が大切だから。等種々様々であらう。其内でも始めから樂をしてようと

か。暇で困るからとか云ふのは除いた他の動機はどれであつても、あまり問題にする程でないと思ふ、子供が好きだからと云ふのが動機で始めても扱やつて見ると六ヶ敷しくて困難になつて……遂には悪い動機で始めた人と同じ様になつてしまふのもある。始めは人にすゝめられても、實際に臨んで経験して見ると興味が津々と湧き出づる様になるのもある、故に動機は實際の渦中に其人を導き實驗は更に新たなる動機を作るものである、とは云ふものゝ感心の出來ぬ動機から始めたもので中頃更に献身的な保育者となつたといふ事は滅多に無く。寧ろよい動機から始めても中途から悪くなる例はいくらもある。

(二)境遇 動機が如何によくてでも従事して居る間に知らず／＼退化せしむるものは、園の習慣、因襲、園風等である、此の感化は實に大なる力を持つて居る、七不思議の第一は即ち保母を同化せしめんとする悪魔(幼児から見て)の一例である。回境が

さ程でなくても鈍感になり易い。まして設備の不完全、不整頓、あしき園風習慣が之れに力を添へられては、之れに感ぜられるゝ勢恐るべきものがある。

(三)信念 保母を通じて保育することが最も大切であるとするれば、保母は小學校以上の先生よりも人格といふ點に重きを置かねばならぬ、然るに幼児を感化すべき保母が回境に支配されて悪い感化を受ける如き事がありとすれば、保母としての資格を失つたものと云はねばならぬ、これ全く自己に墜き信念がないからである、我れは幼児教育の任に當り、幼児をよきに導き救はんとの使命を帯びたる者である、我は幼児に満足を與へ、自然の發育を爲さしめ、幸福ある人類、忠良の臣民となるべき基礎を附與すべき天職を持って、我は幼児を除いては他に何物をも有せぬ、幼児本位より外に私の立場はなしといふ確實な信念が必要である。

(三)保育上の三要件

1. 保育をなすには、どんな材料を擇ぶべきか

..... (What)

2. 其材料を如何に取扱ふべきか..... (How)

3. 何故に此材料を以て保育するか..... (Why)

保育をなすには前に述べた如く深き信念が根源である、而して實際保育をなすに當つて以上のホワット、ハウ、ホワイの三點が保母の心の中に明かであつて、且幼兒に適當して居るか、幼兒の要求に合致して居るか、幼兒に満足を與へ得るものであるかを顧慮して行かねばならぬ。即ち云ひ換へて云へば意味のあるものでなからねばならぬ。これがないとは、まち保育にもなる。貧弱保育にもなる。

(四) 保母の知識

如何に信念があつても保育上の知識が伴はねば不十分である。幼兒に關する智識が之れに伴はねば偏狹な誤りたる保育が行はれる。僞善保育の如き信念は石よりも固いが、廣く深く幼兒を了解せ

ぬ爲めに起るのである、又智識の不足から種々な誤謬が生ずる。彼の自發の穿き違ひなどはその適例である。

保母自身としては組織的系統的統一的な頭腦を要とする、これが缺けて居つてはこの戰後教育には到底満足を與ふる譯には行かぬと思ふ。

(五) 修養

精神方面の修養は信念を作り、人格を高め、又常識を作ることにて於て缺く可らざるものであるが智識を收納する點から讀む事と聞く事が大切である。第六の飾りなき告白は講習に對する一部の感想を表はしたものである。彼の食傷云々といひ、讀むことの面倒がりといひ。お雛様の如くきちんと聽講席におさまつて居ても、心こゝに在らずとか。舟漕ぎて心は佳所に遊んで居るとか、随分穿ち過ぎて居る位だが、又實際さうであるかも知れぬ。

かくの如くしては、ありもせぬ智識は益マイナ

スになる計り、紙の如く薄き智識と綿の如き柔かなる意志(信念とは申せぬ)で何が保育が出来やうか、かゝる人が幼児以外のものを目的として保母の職を取つたら、幼児を毒する者である。讀むことゝ聽くことによつて益々向上發展が期待されるのである、こゝに於て社會も認むる事となるのであらう。然るに自分の道樂と云はゞ遊藝であらうが其方に熱中して肝腎の職責を忽にするに至つては言語道斷である、先づかゝる人はないと思ふが若し之ありとせば保育界の爲めに處斷せねばならぬ位の罪惡である。

(六) 外交政策

自己に信念なく、智識なく、技量なき人は必ず單獨に置けば重心の不安定な物體同様であるから勢他に寄らねばならぬ事になる、彼の有力者の門戸を叩き、其家庭に出入し、これによつて自己の地位を安全にするが如き、當局者の鼻息を窺つて自己の不安を豫防する如きは全く自己の力なきを

表明する寄生蟲で、これが一番進歩を妨ぐる者であらう。これが七不思議中の最も注意すべきものである。

(七) 責任と待遇

保母自身が自己の責任を了解し、飽く迄其責任を盡し得て始めて自己の權利を主張し得るのである、第一より第六迄の不思議なる現象は、責任を思はざるより胚胎し來つたものである、世の中はさかしま事の多いもので、責任を盡さざるもの却て待遇を云爲する、保母は須らく自らの責任を思ふて其之れを盡し得ざらん事を唯畏るといふ心掛がほしい。

さればとて私は現在の待遇を以て満足して居るものでない、否寧ろ低きに過ぐることを大に感ずる一人である、人の子を教育する重任あるものが使丁の収入に及ばざるを聞いては實に驚くの外はない。當局者は保母の資格を改正し少なくとも尋常科正教員と同等に取扱つて貰ひたい、之れが根

本である、かくなれば將來保母となるもの、學力を増進し、社會から信賴さるゝ度も深くなる。待遇も高むる事が出来る。

薄き待遇をなして、重き責任を負ひ、むるのは實に酷の甚しきものではあるまいか。

之を要するに保母が身を保育界に置く以上は、深き信念を持ち、責任を重んじ職責上ベストを盡して貰ひたい、かくすれば自然に智識も受入れたくなる、準備も行きとよく、幼兒の幸福も湧いて来る。無数の不思議も蹟を絶つ様になる。以來このいまわしき七思議の如き記事の掲げられざらん事を祈つて私は筆を擱かう。

○お断り

先月も今月も止むなき事情のために發行日を遅延いたしました、讀者諸氏に深くお詫びをいたします。

今後は大いに勉強して遅延致さぬ覺悟です。尙菅原先生の「色彩の心理」は今月も先生の御都合で頂くことが出来ませんでした、來月からは是非お願ひして續載して行く筈になつて居ります、

(記者)

毛虫

毛虫、毛虫、青い毛虫、

そなたは何處へ匍ふてゆく、

夏の日くれの磨硝子、

薄く曇れる冷たさに、

幽かすかに幽はらにその腹部の透いて傳はる美しさ。

外の光のさみしいが、

内の小笛のこいしいが、

毛虫、毛虫、青い毛虫、

そなたはひとり何處へゆく。

白秋 おもひでしより

貧兒保育の話 (二)

二葉保育園 徳 永 恕 子

一口に鮫ヶ橋の貧民窟と申しますが鮫ヶ橋附近は近頃では餘程よくなつて參りまして、以前のやうに非道い貧民窟ではなくなつて居ります、これは新築の家屋が増えて來たために極端に困つてゐる貧民は何處か他の場所へ移轉しなければならぬやうになつて來たといふことも一つの原因であります。しかし確かに鮫ヶ橋の貧民が多少向上したためであるとも觀察されないことはないのであります。

鮫ヶ橋の日に／＼向上して行くに反して、今度分園を設けました新宿の南町邊は實に非道い貧民窟であります、この邊には日雇等の一定の職業に従事する者は極めて尠く、大抵は拾ひ屋と申しまして、ブリキのかけらなどを河の底や溝の中から

拾ひ集めて、これを屑屋の立場に持つて行つて幾許かに賣り、わづかにその日を送つて居るのであります、身體の利かないもの其他のものは家に止まつてゐて、一日かゝつて二錢位の麻糸つなぎをやつて居ります。この邊の人達の困ることは、拾ふと盗るとの區別が不明瞭であるといふ點であります。子供も斯ういふ周圍で育てられて居りますために、時々盗ることを拾ふこと位に心得るやうなことがあつて困るのであります。鮫ヶ橋の方も十年程以前には矢張この拾ふと盗るの區別がはつきりして居りませんでした。随分子供が盗みをして來ると、その敏捷さを賞めるなどといふ心得違ひの親もあつたのであります、その頃は鮫ヶ橋の本園の周圍の竹矢來の竹などは、竹馬を作るた

め、又焚付けにするために、よく破して持つて、行かれて了つたものでありました。

新宿分園の目下の周囲の状況は丁度十年程前の鯨ヶ橋の状況に似て居るところが澤山あります。

この邊の子供は小さい子は風呂敷を持つて、大きい子——と申しても十三か四位の子は籠を擔いていづれも毎日焚付けを集めに出掛けるのであります。彼等の親達は子供の教育などといふことに就ては全然思を致して居りません、たゞ何うしたらより多くの仕事をさせて、自分達の足らず前を補せることが出来やうかといふことのみを、子供の上成就て考へて居るのであります。しかし子供達は自然の要求として非常に教育されることを欲して居るのであります。それ故に分園がいよく出来上りまして、開園式を行ひますと、彼等は喜んで登園して來るのであります。しかし年を取りすぎてゐるために生徒となり得なかつた子供達は年少の子供達が園へ通つて行くのが羨しく、自分

達だけが關ひつけられないやうに考へて、何となく寂しい氣がするものと見えて、私達の事業にいろ／＼と妨害を加へやうと致すやうになりました。十八才位のを頭にして是等の子供が執念く園に對して悪戯をいたすのであります、例へば園の周囲の四目垣は幾度彼等の手によつて破されたか知れませんが、潜り戸も幾度となく外づされました。中へ入つて來て、椽の下へもぐり込んだり、屋根へ上つたりします。彼等は蟲のやうに早く駆けまわります、實に手に了へないのであります。それから園へ來て折角多少教育的に導かれた子供をいろ／＼悪魔的に誘惑して、私達の骨折を水泡に歸せしめやうと致します。

私はこれから銀三といふ少年が是等の園の外の小悪魔に幾度か囚にせられさうになりながらも、遂にその毒手を免れて、私達にまで來たことをお話致さうと思ひます。

銀三といふのは十歳の少年です。一昨年母が死

去しましたので、只今では父と七歳になる妹と三人で暮して居ります。父は車夫をして居ります、

綺麗な俵を貸りても齒代が拂ひ切れませんので、きたない俵を貸りて仕事に出ます、俵がきたないために仕事に出るのは夜であります。この父といふものはそれほど年齢でもありませんが、病氣のせいか、よぼ／＼して居りますので、一晚稼いでも、辛やく十銭位しか稼ぎ得るに過ぎないのであります。そこでこの親子三人は日に一度づゝ残飯を買つて来て食べて居ります、毎日女の子が蓋の無い桶を持つて、五銭玉を握つて残飯屋へ行くのであります。一日に一度しか食べないので、あとの二度は何も食べないでゐますが平氣なものであります。慣れて了つて居るのです。

昨年十一月、分園を開始する前に、私達は分園の周囲の貧民窟を歩いて、幼児の居る家へ立寄り、園へ通はせるやうにと話してまわりました。

銀三の家へは何うしたわけでしたか参りませんで

した。

さて開園の當日となりますと、澤山の幼児が集つて参りましたが、その中にこの銀三兄妹も混ざつて来たのであります。十一月の寒空に二人ともぼろ／＼の單衣物を着て、「あたしも入れておくれ」と言つてやつて来たのであります。私達は無論彼等を喜んで迎へてやりました。

銀三の家はお話したやうな次第でありますから却々規定の一銭づゝを持つて登園することが出来ません、銀三の父親はこのことを非常に濟まないと思つてゐるといふことが私達に分りました。私達は銀三の父親がまだ心から墮落し切つて居ないことを喜びました、そこで二人の子は特別扱ひとして何處までも教育してやることに致しました。

銀三兄妹は身體の抗抵力が強く、却々病氣などに襲はれるとはありません、時々不良少年の手足となつて悪いことも致しますが、多少の見込がありますので私達は彼を何うかして明るい方面へ向

けてやりたいと決心しました。それは彼等には兄妹の親しみ、親子の愛といふものが充分に表れて居たからであります。本来ならば銀三は十歳でありますから、私達の対象としてゐる子供達から見れば年をとりすぎてゐるのであります。しかし規則に縛られる必要のない私達は彼の入園を許したのであります。

入園してから毎日、兄妹は一錢づゝを持たずに通つて来て居りました。五六日経つてのことでありました、或日八錢持つて参りまして、「さアおあし」と言つて、私達の前へ出しました。私達はその時黙つて受取つて置きましたが、不審でしたので、夕方父親のところへ行きました。その時父親は酔つてでも居たものか、別にはつきりした挨拶もしませんでした、私達が園へ歸りつくと、やがて父親は血相を變へてやつて参りました、而してその金は自分に無断で子供等の持ち出したものであつて、それがなくては、明日俵をかりること

が出来ないから返してくれといふのであります。乃で私達はその八錢を返してやりました。銀三兄弟はこの時ひどく父親から叱られたのであります、この事があつて以來、銀三はばつたり學校へ來なくなつて了ひました。私達が道で逢つて連れて來やうとしても來ません、逃げて行つて了ふのであります。後暗いところがあるので何となく氣まりがわるいのです。園へは來たいのであります、しかし何となく來にくいといふのが銀三の心持でした。それで銀三はさびしげな顔をして時々そつと園へのぞきに來るのであります。或時銀三に「お入りなさい」と言ふと、彼は入つて來ました。鉛筆と紙とを貸し與へましたらば、二時間ほど一心になつて繪を描いたり、假名で自分の姓を幾度も書いたりしました。これから又銀三は園へ來るやうになりました。

私達は銀三を何うしてもその悪い周圍から引離して置かなくてははいけないと思ひました。それで

私はなるべく彼を私の側に惹きつけて置くのがいゝと思ひました。それで私が新宿の分園から鮫ヶ橋の本園へ来る時には、常に銀三を伴うて来ることに致しました。本園の方にもよくお話しして置いて皆で銀三を愛しいたはつてやりました。銀三は始めて人の愛といふものを経験しましたが、外の誘惑がありますので、全然私達のものとはなつて居ませんでした。或る時園の井戸で銀三がポンプを押して水を汲んで居りますと外から仲間が二三人で銀三を呼びます、銀三は振り向きもしませんでした、到頭彼等の中へ入つて来て、銀三の手をひつぱつて外へつれ出さうとしました。銀三は「先生」と叫びながら、彼等の手から自分を無理に振りもぎつて、私達のところへ逃れて來ました。この時以來、銀三は外部の子供達と全然關係を斷つて了つたのであります。

銀三には年相當のことをさせて、園の仕事を手傳はせて居ります。晝の辨當をこの兄妹だけには

特別に與へることにして居ります。日曜にも園へやつて來ますので、只今では園の子供の如くになりました。親もしきりに感謝してゐると見えまして、女の子が「お父さんが幼稚園の先生はいゝ人だと言つた」などと申します。

銀三に向つて「あなたは後になりたか」と聞きましたら、「何處へも行かれないやい」と申しました。よく譯を聞いて見ると自分が奉公にでも出たら、妹が一人でさびしいだらうから何うすることも出來ないといふ意味なのであります。涙の出るやうなやさしい兄の心ではありせんか。

銀三には二人の姉があるさうであります、一人は淺草邊で悪い商賣をして居り、一人は所澤の機屋へ行つて居るとかいひます。銀三の妹は、たけと言ひますが縹緞よしでありますから、姉達を襲うたと同じやうな運命が今にもこの子の上にも來さうな氣がして、私達は怖ろしく、一生懸命にそれを防いでやらうと思つて居ります。父親は近頃で

は貸りた俵をこわしたとかで、拾ひ屋になつて居ります。

銀三は夕方になると三四人の仲間と一緒に新宿停車場の近くへ炭を拾ひに行きます、彼等はこれを稼ぎにゆくと稱して居るのであります。彼等は一人で行くときと盗賊と間違へられるから皆と一緒に行くのだと申します、又夜おそく行つても盗賊と間違へられるので夕方行くのだと申します。

銀三は繪が好きで、新宿から鮫ヶ橋へ来る途中でも活動寫眞館の繪看板などを熱心に見るのであります。又額なぞをよく見覺えて居りまして、分園の額と本園のと同じのがあると直ぐ見分けるのであります。

銀三は只今鮫ヶ橋小學校へ通學致して居ります銀三は小學校を卒業して、奉公に行くと言ふことを樂しみに、毎日勉強して居ります。

新宿分園の卒業生は今年廿三人ありましたが、矢張南町の私塾で、一錢學校といふのがあります

から、そこへ皆入學するやうに勧めました、而して私達は常に彼等が學校へ行つてるか何うかを注意して、彼等が素直に延びてゆくやうに守つてゐてやります。(文責在記者)

寢覺め

窓の敷居をびよんと跳ぶ、

黄色い嘴の、光る眼の、

小鳥が、上眼で、言ふことにや、

「眠がり坊ちゃん、おかしいな」

盂 蘭 盆 話

村 尾 節 三

盂蘭盆はうらばんと云ふ、盂蘭は死者の倒に懸られたるが如きの意、盆は食を盛る器の名、倒懸の苦を救ふの義なり、略して單に盆とも稱せり。七月十五日家毎に祖先及び亡者の靈を祭りて供養をす、之を精靈まつりと云ふ、其起源は、目蓮尊者の亡母の在處を求め、餓鬼中に生れて飢ゆるを知り、食物を食せしむるに、食はんとすれば、火となりて燃えあがりぬ、目蓮悲しみて、釋迦牟尼佛に申せば、釋迦牟尼佛云はく、七月十五日は佛歡喜し、僧自恣する日なり、其日百味飲食の物を鉢に盛りて、衆僧に供養せば、母の苦しみを救ふ事を得べけん、目蓮其言に従ひ、母の苦患を救ひたりと云ふ故事に因れるなり、我國にては推古天皇の時、每寺七月十五日に齋を設けしを以て始とす、次で齊明天皇三年七月に、飛鳥寺の西に、須彌山の狀を作り、盂蘭盆會を設けたる事あり、王朝時代には、十四日に清凉殿の東孫庇にて、主上の御拜あり、御幼年の時に行はず、十五日に太政官にて、供養の物を諸寺に送り、鎌倉幕府の時には、盂蘭盆會の時、勝長壽院に於て萬燈會を行へり、寺院にては、盂蘭盆會を行ひ、施餓鬼を行ふ、又民間にては、近世七月十二日草市又は盆市と云ひて、供物器具等を賣る、十三日迎火を焚きて、祖先等の魂を迎へ、供物を獻じ燈籠を懸けなどす、僧侶は棚經と稱して、檀家に行き、精靈棚の前にて讀經す、十五日若しくは十六日に、送り火を焚きて亡魂を送れり、地方により、迎火送り火とて、其夜墓前に大なる雪洞を懸くる事あり、又盆踊と稱して、街巷に男女相集り、唱歌して踊れり、今僅に地方に存せり。

魏町幼稚園 蓄音機の利用 に於ける

幼稚園に於ける蓄音機の利用は亞米利加邊では、もう珍らしいことでも無い様に聞いて居ます。我國でも岸邊氏の東洋幼稚園に於ては疾くから試みられて居る由です。之れは確に保育上の新しい試みとして、大に研究もすべきことと又出来る限り普及もし度いことと思ひます。近時魏町尋常小學校附屬幼稚園に於て同校長土川五郎氏は、其の熱心なる新遊戯研究の一部として盛に蓄音機の利用をして居られます。殊に、ありふれた唱歌や俗謡を餘興式にかけて置くといふのではなくて、全然教育的に、蓄音機でなければ出来ないことに蓄音機を利用して行かうといふ、極く眞面目な研究であります。左の寫眞は其の光景の一部で、次のお話は土川氏に乞ふて、その御意見の一端を記者が伺ふた筆記であります。(記者)

動作遊戯の伴奏として蓄音機を用ゐると種々の點から都合のいゝことがあります。

先づ蓄音機に入れてある曲は單一の樂器に依つて居るのは稀れで、多くはいろいろの音を組合せてありますので、そのメロディに合せてあるアルトやベースはその曲を一層深からしめるのであります。故に筋肉を運動せしめる効果からいふと、

蓄音機の方がピアノやオルガンよりも優れてゐるわけであります。種々の音を組み合せた音樂を教育に利用するといふことはあまりに贅澤であり、又費用が許さぬのであります、しかし吾々は蓄音機に依る時は等の問題を忘れ去ることが出来るのであります。

行進曲は非常に壯快で兒童に喜ばれるのであります。が、これも單一の樂器に依つたものより複合樂の方が更に一層兒童の内面生活に觸れて行くのであります。外國には「スクール・マーチ」といつて、特にこの目的のために、兒童向きの壯快なレコードを澤山集めたものがあります。殊にヴィクター會社で出来る「教育的レコード」の中に含まれてゐる運動に使用する盤は極めて短い曲を何回も繰返して吹込んでありますので、一枚の盤によつて幾回も運動を繰返すことが出来、非常に便利



であります。

もう一つ都合のいゝことは奏樂を蓄音機に任せ
てありますので、教師の手を省くことが出来るこ
と、蓄音機は他の樂器にくらべて比較的嵩ばらな
いために屋外に持出すことの出来るのは無論のこ
と野外保育の場合なぞにも、これを携へて行つて
縁蔭に於て愉快な動作遊戯を行ふことが出来るの
であります。

聊かグイクター會社の提燈持ちをしてゐるやう
に聞えて氣がさして困りますが、グイクター會社
の四十五圓の蓄音機に依りますと、百二十坪程の
室内で二百人許の兒童に運動させることが出来ま
す。蓄音機はこれを載せる臺の高さとネヂの加減
で音の高低明瞭に餘程差が生じて來るのでありま
す。それ故にこれらの點から蓄音機の使用法を種
々研究いたしますと、蓄音機は實に悔り難き効果
を教育に及ぼすのであります。

第廿四回

京阪神三市聯合保育會

一、時日 大正六年六月十日 自午前九時三十分
至午後四時二十分

一、場所 京都市公會堂

一、順序

一、一同着席 敬禮

一、唱歌 君が代

一、京都市保育會長開會の辭

一、京都市知事祝辭

一、報告

1 園兒心身發達の正常標準調査の件（三市

役員會）

一、議題

1 公立幼稚園及保母にして幼兒の衛生上特に
顧慮すべき疾病に罹り休職又は退職を命ぜら
れたる者に疾病治療料を市町村立小學校訓導
と同様に給せられんことを其筋に建議しては

如何、大阪保育會提出

一、大阪建議者の建議の動機説明

一、神戸杉野氏贊成演説

小學校と幼稚園とは略相似たるものなれば
小學校訓導に與へらるる特權は之を幼稚園
保母にも與へて速かに待遇せられん事望ま
し云云

一、神戸高橋氏反對演説

小學校教育は公務なり、幼稚園は全々之と
異り家庭保育の一部に屬すべきものにして
保母は家庭の母と同位置に在るべきものな
り而して母の疾病に就ては何等それ等の事
在る無し獨り保母に其要あらんや云云

一、京都中野氏贊成演説

幼稚園が小學校令中に記載せられたるを見
れば幼稚園は國民教育の一部と認めらるる
ものなり、故にこの問題に就ては贊成の意
を表して可なるべし云云

この議題は可決せられ次第を以て其筋に建議の筈なり

2 園児の成績品を保育に如何に利用すべきか

其良法を承りたし(京都市保育會提出)

一、大阪市保育會四方氏

一、個々の物を集めて大なる統一を作るこ

と、例へば自然物の草花等を蒐集して箱

庭を作る之によりて個人と團體全體と部

分との關係を知らしめ得

二、幼稚園及家庭に於ける家庭の玩弄用と

す

例カブトを摺みて之をかぶり又もてあそ

ぶ

三、實用的方面にては毒、菓子等を作り之

を與ふ、其實用を知らしむ

四、幼稚園又は家庭に於て他人に示し又與

ふ、幼兒相互間或は母姉弟妹に與へ又見

しめて好意親愛の情を養成せしむ

五、裝飾用として

壁、天井、黒板、樂器等に貼す

六、展覽會を開きて陳列す、

保育終了期或は記念日等に於てす

自己の力を知り活動を促す、

七、紀念物として保存す、

家庭或は幼稚園に(愛園心養成せらる)

一、京都市姫宮氏

一、貼紙を利用して出席表を作らしむ、缺

席せし時は貼り得ざるため勤勉努力の精

神を養ふ一端となる、

二、保姆としては幼兒の個性を觀察し得

三、守札を作り玩具中に混じて幼兒に貸與

する時は遊戯中に自然的に文字をよみ又

書く事を得るに至る、

一、京都市司馬氏

一、繪畫に就て幼兒の嗜好に就て

二、講演

演題「歐洲に於ける幼稚園の現在及將來」

京都帝國大學文科大學助教 野上俊夫氏

歐洲の幼稚園は大別して二種となる

一、乳兒預り所 二歳半より三歳

二、幼兒預り所 三歳より六歳

乳兒預り處は巴里の如きは一市にして凡そ其數百あり、其完備したるものの設備には寢臺數十餘あり、襦袢の替へ方より、沐浴食事醫療牛乳の作り方を母に教ふる等の事迄も行はる、要するに都市工業の勃興に伴ひて起りたるものなり、

幼兒預り處は日本にて云ふ所の幼稚園にして、フレールによりて創められたりと稱せらるるものなり、(略)

而して幼稚園事業の最も盛なるはベルヂウムにして、其他フランス、イタリヤ、スイス、ドイツ等の幼稚園數、園兒の數等に就て(省略)

日本に於けるものは多くは公立のものなれども

歐洲に於ては私立のもの多し、中に就て白耳義佛蘭西、英利西等は公立のもの多く獨逸スイデンには私立のもの多し、

保姆の養成機關に就て日本には大略無しと云ひ得可なれども歐洲は各國多くは在り

滿十七歳程の女子が國家の檢定によりて保姆となるもの獨逸に於ては十六歳程の女子を收容して一年或は二年養成す、又保姆の助手の如きものを養成するもあり

保育の實際に就て乳兒預り處に於けるものは家庭と殆んど同様の事をなす、食物沐浴の事より午睡、遊戯の事迄、幼兒預り所は日本今日の幼稚園に於けると大差なし、國によりては讀方書方を授くるあり、佛國の如きは極端にむづかしき事を授く、例へば *have* と *has* の使用法の如き或は佛國には如何なる川があるか。セーヌ川畔には如何なる都邑あるか、又は地球の自轉と公轉によりて晝夜四季の區別を生ずる如き事

迄。

獨逸に於ては絶對に教ふる事をなさず、日本に於けると同様なり

日本の幼稚園の實際は西洋のもの平均に比して決して遜色なし、但し歐洲には歴史あり、又保母養成機關等も在るを以て例外に模範的のものあり、歐洲に於ける幼稚園の將來を想像するに、要するに未だ研究の時期に在り。大體に於て歐洲列國の幼稚園に就ての學者の一致點は「フレーベルに歸れ」にあるべし、即子供ノ立場より出發し保母は室の一隅に在りて傍觀者の態度を採り子供の自發活動を尊重すること即子供中心主義に在るなり、而して子供は自然に接するを其性質として喜ぶものなるを以てここに注意し。又恩物に就てはそれ自身尊きものならずこれを用ゐる法の如何によりて尊きものなること、其他實際に幼児に接する保母と學者とが一致して其れ〜研究すべきこと、

休憩 (畫食)

一、遊戯交換

1 貝拾ひ 2 岡崎公園 京都市保育會提出

1 兎 2 鳩 3 猫と鼠 大阪保育會提出

1 子供遊び 2 竹藪 3 お米 神戸保育會提出

二、研究報告

一、京都市森谷氏

京都市に於ける溫度と濕度と體重との關係

一、神戸市望月氏

神戸市に於ける溫度と濕度と體重との關係

一、大阪竹村氏

身長、體重、胸圍の増進率調査につきて

三、十分間談話

一、大阪市小山氏

「婦人と子供」掲載の「七不思議」に就ての所感

一、神戸市中尾氏

幼児の衛生に關して

百日咳 勿論百日間は休園せしめ全快後醫師の證明書持參に非ざれば登園を許可せず

トラホーム 入園せしめ中途にて罹りし者は治療せしめ全快後登園せしむ

麻疹 痘瘡 全快後一週間を經過して入浴せしめ登園せしむ

この外に笠原博士と望月氏との對話にありて女兒の便の拭ひ方、入浴時の注意

手を洗ふ事を勵行せしむること

爪を剪る事 毛じらみの注意 卷尺に就て有

益なる談話ありたり

一、京都市清水氏

戦後の幼児保育に就て時間の不十分なりしため意をつくされ得ず

四、議題

1 個性に順應したる保育の最適なる方法を承

りたし

神戸市保育會提出

一、小久保氏

觀察法

1 保姆の調査(知育方面、德育方面、體育…)
2 家庭より材料を仰ぐ(日々の行爲又は境遇等を見る)

取扱法

1 一般的保育(室内に一同を集めて)
2 個人的保育(個性によりて行ふ)

一、神戸市中尾氏

郊外にて保育を行ふ時は幼兒の個性を十分に觀察し得

保姆の修養の必要なること

一、京都清水氏

時間の不十分なりしたため意をつくし得ず

2 幼兒の神經系統養護上保姆の採るべき實驗方

法を承りたし

大阪市保育會提出

一、神戸市日野氏

積極的方面より運動神經及感覺神經を發達せしむること

消極的方面よりは疲勞の恢復を期すべき事に

就て

一、大阪府膳氏

- 1 戶外保育に重きを置き筋肉の發達を計ること
- 2 自然に接して自然を學習し、自然物を玩弄せしむる方法を採ること
- 3 騒しき周圍を避け心地よき境遇中無邪氣に思ふままに活動せしむること
- 4 女らしき事にのみ傾かず随分と思ひ切りたる遊戯も奨勵してやること
- 5 室内は採光通氣に注意し酸素の供給を出來る限り十分にする事
- 6 繪本類の觀察を制限し又過度に神經を興奮せしむる如き談話遊戯を嚴禁すること
- 7 幼兒の自然的睡眠時間を少しも減縮する事なく十分睡眠時間を與ふること、家庭にも注意す

神戸保育會長閉會の辭

(をばり)

第二十四回京坂神聯合保育會
提出遊嬉ノ歌曲 (大正六年六月)

遊 嬉

○竹 藪

| | | 竹 | | 藪 | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|---|---|
| | | ニ 調 | | ニ 拍 | | 子 | |
| 3 | 3 | 5 | 5 | 6 | 6 | 5 | 6 |
| タ | カ | イ | イ | ガ | キ | イ | イ |
| 6 | 6 | い | い | 5 | 5 | 3 | 3 |
| タ | ケ | ガ | ガ | イ | ツ | パ | イ |
| 1 | 1 | 2 | 3 | 5 | 5 | 3 | 5 |
| ス | ハ | メ | ハ | ト | サ | ン | ン |
| い | い | 7 | 6 | 5 | 5 | 3 | 5 |
| ニ | イ | サ | ン | ネ | サ | ン | ン |

(一) 高い大きい
まつすぐな
竹が一ぱい
はえて居る
雀は父さん
母さんやに
いさんねー
さん赤ちや
んと

(二) 毎日こゝに
とまつてち
ゆうくち
うゆとない

てゐる竹は雀と仲よしでよそに行くなといひま

する

(三) 風の吹かないぬくい日に雀はわすれてとび出してお山で遊んでゐるうちに大きい鳥におはれた

(四) 雀のお宿はるすのまにねどこの下から竹の子がいくつもくならんでニヨキくくとはえました

一、全員圓ヲ相接シテツクリ一人其中央ニ出テ八筋ノタスキヲ用意シテ持ツタスキハ圓ノ中央ニ据エ置ク

二、中央ニアリシ一人ハ歌ニ合セテ周圍ノ子供一人く二手ヲ觸レテ廻リ四小節目ニ當ル人ヲ中央ニ出ダス

高い大きいまつすぐな 一人

竹が一ぱいはえてゐる 一人

中略

よそに行くなといひまする 一人以上八人

三、歌ノ切目ニ當リタル人ハ中ニ入り中央ノタスキヲ取りテ肩ニ掛ル

四、第三ノ歌雀ハ忘レテノ時ニ中ノ者皆出テ行キ隠クレル圓ノ者

ハ始メノ一人ト共ニ歌ニ合セテ廻リお山で飛ぶヨリ逆ニ戻リ

大きい鳥ヨリハ急ギ足ニ廻ル(其間ニ八人隠レ終ル)歌終リテ

全體ニテ探シニ行リ連レ歸ル

タスキヲ掛ケタルモノ中央ニカガム

五、雀のお宿はるすのまに(周圍ノ者ハ中央ニ集リテ拍手)

れどこの下から竹の子が(兩手ヲツナギ外側ニ開ク)

いくつもくならんで(開キタルマゝ右ノ方ニ廻ル)

中央タスキヲ掛ケタル者ハ第四ノ歌ニテ笛ト早變リシタルナリ

ニヨキくくノ歌ニテ笛ハ一人く立チ上ル歌終リタル時一本二本三本ト數へ八本ニ至リテ終ル

○子供遊び

(一) 太郎さんく旗たて、君はどちらへ行きますか

兵隊ごとするのにお連れがあるのでこれからみ

んなを呼びに行く

(二) 花ちゃんく人形だいてあなたはどちらへ行きますか人形ごとするのにお連れがあるのでこれ

からみんなをよびに行く

一、男子一人旗ヲ立テタル真似シテ圓ノ中ヲ歌ニ合セテ歩ム歌ノ

中ノ太郎ハ其ノ子供ノ姓又ハ名ヲ用フル方ヨリロシカルベシ

二、周圍ノ圓ハ立ツトモ座ストモ隨意ナルベシ

子供遊び

| 子 拍 子 | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| へ 調 二 | | | |
| 5 5 3 | 2 2 1 | 2 2 1 2 | 3 . 0 |
| — タ | — タ | — ハ | テ |
| 5 5 3 3 | 2 2 1 2 | 3 3 2 5 | 1 . 0 |
| — キ | — ド | — ユ | カ |
| 2 2 2 2 | 3 2 1 2 | 3 3 6 6 | 5 5 3 3 |
| — ヘ | — ス | — オ | — イ |
| 5 5 3 3 | 2 2 1 2 | 3 3 2 5 | 1 . 0 |
| — コ | — ミ | — ヨ | ク |

三、(イ)圓ノ者太

郎さん〜ヨ

り行きますか

マデヲ歌フ

(ロ)中央ノ一

人ハ兵隊〜と

するにヨリ終

リマデ歌ホツ

少歩ム歌終ル

ヤ中央ノ者、

鐵砲、ラツバ、

帽子、背囊等

隨意ニ云フヲ

相圖ニ周圍ノ

四

者モ其眞似ヲ爲ス

失敬ヲ爲スニ至リテ次ノ女子ニ換ル

女ノ子モ人形ヲ抱ク様子ヲシテ第一回ノ如ク爲シタル後

ダツコ、オンブ、ハイ〜、オチ、チヨウチ〜等何ニテ

子供ノ爲ス事ヲ眞似タル後失敬ニテ男兒ニ換ル

唱 歌

○お 米

| 子 拍 子 | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| へ 調 二 | | | |
| 5 1 1 | 2 2 3 3 | 5 3 2 1 | 2 . 0 |
| — モ | — タ | — エ | テ |
| 3 3 5 5 | 3 2 1 1 | 2 3 2 2 | 1 . 0 |
| — ナ | — ツ | — マ | ネ |
| 5 5 5 5 | 3 2 1 2 | 3 3 6 6 | 5 . 0 |
| — ア | — ホ | — ダ | ト |
| 5 5 6 6 | 3 3 5 | 2 1 3 2 | 1 . 0 |
| — ロ | — ス | — ノ | タ |

(一)もみを澤山えりわけて苗代つくり蒔いたたね雨降り日でりだん〜と六七寸にのびてきた

(二)のびた苗をばぬき取りてとうさんもかあさんねーさんも箕きて笠きていそ〜とやがてきれい

にうえつけ

(三)つよい暑さを苦にもせず草がはえたと草をとり水が足らぬと水を入るあゝいそがしいお百姓

(四) あちらやこちららの田の中に案山子や鳴子をこしらへてちうくくとよつてくる穂をつむ雀お

うてやる

(五) みのりしいねを刈りとりてもみを残らずこきわけてお米になつたら俵にしエンヤラ運ぶたのしさよ

(一) もみを澤山えりわけて

(圓形ヲ作リ左ノ手ニモミヲ入レタル形右ノ手ニテ之ヲエリツケル)

苗代つくりまいた種

(兩手ニテ苗代ノ形及種マケ形)

雨ふり日でりだんぐと

(兩手ニテ雨ノフル形兩手ニテ太陽ノ形ヲナス)

六七寸にのびてきた

(兩手ニテ苗ノ一寸ヨリ六七寸マデノビル形ヲナス)

(二) のびた苗をばぬきとりて (苗チメク形)

とうさんもかあさんもねいさんも寝きて笠きていそいそと

(簑ト笠ヲ著ル形)

やがてきれいに植ゑつけた(苗ヲ植エル形ヲナシツゝ横ニ行

進)

(三) つよい暑を苦にもせず

草がはへたと草をとリ (草ヲトル形ヲナシツゝ中心ニ入ル)

水が足らぬと水を入れる

(兩手ヲ握ギリテ上ニノバシ水車ヲ動かス形ヲナシツゝ本ノ位置ニカヘル)

あゝいそがしいお百姓

(拍子)

(四) あちらやこちららの田の中に (右向ケヲナシ其ノマ、

アチヤヤコチヲト指ザシス)

案山子や鳴子をこしらへて

(兩手ヲ左右ニノバシ案山子ノ形

兩手ヲ垂レテフリ鳴子ノ形)

ちうくくとよつてくる

(兩手左右ニヒライテ雀ノ形)

穂を つむ雀

(左手ノ手首ダケヲサゲテ穂トナシ右ノ手ニテ之ヲ食スル形ヲナス)

おうてやる (細カク拍手)

(五) みのりしいねを刈りとりて

(兩手ノ手首ヲサゲ稻ノ形ヲナシ左ノ手ニイネヲ持チ右

手ニテ刈ル形)

もみをのこらすこきわけて

(兩手ニテ稻ヲコク形)

お米になつたら俵にし

(俵ノ形ヲナス)

エンヤラ運ぶたのしさよ

(俵ヲカツク形ヲナス)

(此唱歌ハ數年前ノ作ナレド各地ヨリ歌譜ヲ要求セラルコト多キヲ以テ遊戯提出ノ序ニ之ヲ記ス)

神戸市保育會

雜 錄

○文部省保育講習會

文部省主催保育講習會は左の通り開催せらるゝ、
ことになりました。

期日 八月一日より同十日迄
會場 東京女子高等師範學校
學科及講師

一、幼兒の傳染病豫防に就て(四時間)

東京帝國大學醫科
大學教授醫學博士 弘 田 長

二、保育の手段(十時間)

東京女子高等
師範學校講師 倉 橋 惣 三

(一) 保育手段の意義

(二) 普通に行はるゝ保育の手段

(イ) 音 樂

(ロ) 動作遊戯

(ハ) 談 話

(ニ) 圖 畫

(ホ) 手 技

(一) 實際生活

三、幼兒に興味ある動物の生活(十一時間)

學習院助教 太 田 順 治

(一) 飼育觀察に便なる魚類其の他の小動物
に就て

(二) 幼兒の注意を惹き易き昆蟲に就て

(イ) 目に觸れ易きもの

(ロ) 發音機を有するもの

(ハ) 其の他

四、遊戯(理論及實習) (九時間)

東京府東京市
麴町尋常小學校長 土 川 五 郎

(一) 幼稚園遊戯

(二) 遊戯の基本的練習

(三) 遊戯實習(十數種)

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は三人とす

一、講習員は地方長官之れを選定す

一、地方長官は講習員を選定したるときは本人の

氏名、職名、講習を受くべき學科目を記載し

たる選定書を七月二十日まで文部省普通學

務局に差出し講習員を開會前日までに講習會場に出頭せしむべし

一、講習員の資格は幼稚園長及保母に限る

一、地方長官は定員以外に豫備員を選定することを得

一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其旨地方長官に通知す

一、講習を終りたるときは講習員の出席を査定して證明書を授與す

東尻池幼稚園保育狀況

(神戸市東尻池町二ノ五三所在)

保育の要旨

學齡未滿の幼兒の家庭教育を完全ならしめんが爲に専ら幼兒身體の均等なる發育を圖り、純和なる感情を養ひ感覺器の練習を適當にし、意志を練り以て後來心身發達の基礎を涵養するを以て本旨とす。

保育の主義

保母中心主義を排し、幼兒中心主義に據り幼兒開發を主とし、尙幼兒天來の模倣性を適當に利用して自然的開誘に注意す。

編制

幼兒の總數二百七十三人之を六組に編制す。

保育の方法

一、整容 毎朝會集前約十五分保育室に於て心身を靜止せしめ、服裝を正し容儀を整へしむ(鼻汁を洗ひ顔面手先を洗はしむる等)

二、會集 整容後直ちに全園幼兒を一室に集め、園長又は主事之が開誘に當り、先づ所定の唱歌を合唱し、次に瞑目雜念を拂ひ、放心を一點に集注せしめ、常に不屈の精神を修養し、終りに卑近なる童話お伽噺偶發事項指示等をなし、又は唱歌をうたひ知らず識らずの間に純美なる感情の發育を計る。

三、遊嬉 身體諸部の發育を助長し、心情を快潤にするに勉め、常に自由遊嬉を以て、個人性の發達を計り、共同遊嬉は毎週凡二回之を課し、協同

和親の情と規律的良習慣とを涵養す。

四、郊外保育 本園保有の主義を貫徹せしめんが爲めに、郊外保育を最も重要視し、天候の許す限り

郊外田野又は海岸附近に連れ行き、新鮮なる空氣と日光とに浴せしめ筋肉呼吸器等、總て身體各部の發育を助け、自然界に接觸せしめ、手技唱歌談話の遊嬉等と適當なる連絡を保ち、以て天賦の本性を發揮せしむ、今其の實際の狀況を二三左に擧げん。

イ、本園西數町新湊川原あり、水少く清砂多く兩堤芝生廣く、保育上最適地なれば幼兒を之に引牽し、時に砂山を築き、川を作らし、草花を採り來りて、之に植ゑしむるなど嬉遊の中に適當なる運動と意志の修練に資す。

ロ、同所に於て共同遊嬉を課し、轟々と汽車鐵橋を通過するや之を觀察せしめ、且汽車の唱歌を唱はしむる等無上の樂天地に於て可憐なる幼兒の保育を行ふ。

ハ、種々の草花を採り來りて觀察せしめ、直ち

に之を飯事遊に應用し、草葉を卷きて餅を作り豫て準備せる玩具の盆茶碗等を以て主人となり客人となり、作法を修練す。

ニ、歸園に際し土産として花を持ち歸らしめ、實物を臺紙に貼らしめ、切貫の蝶或は植木鉢等を添加し以て手技に應用す。

ホ、本園南數町にして兵庫運河あり之より吉田新田海岸に至る、附近白砂青松眺望絶佳海を隔て、模糊たる紀淡の山嶺を望み、海上浪穩にして大船小舟の往來繁く又以て保育場として最適の地とす、之に幼兒を引牽して此の自然の風物に接觸せしめ、審美的感情を養ひ、帆船を見ては船の唱歌を唱ひ、軍艦を視ては海戦の歌を唱はしめ又は貝を拾ひ石を集めて小山を作り、或は飯事をなさしめ之を持ち歸りては手技に應用する等種々の方案を以て幼兒を開誘し、兼て觀察力を喚起せしむ。

五、談話 心性を涵養し、徳性啓發の資たらしめ

觀察及び作法言語を練習せしむ、材料は主に自己家庭、社會國家自然より採りたる話並に園兒との約束園訓等を以て談話す。

六、唱歌 卑近なる單調唱歌を選び、忠孝を主とし其の他自覺し得べき歌曲を謡はしめ、徳性を養ひ聽覺發聲及び呼吸機關の發育を資助す。

七、手技 可成自然物を利用し工具、草木の葉を以て種々なる細工をなし、其の他組紙、折紙、積木豆細工、麥稗細工等を課し、宇宙萬有合理の淵源を感得せしめ、一般手及び眼を練習して工夫想像の力と美的心性を養ふ。

八、食事 晝食時に於ては食後面白き談話等をなし作法を會得せしむると同時に、家庭的團樂の趣味を養ふ。

九、敬神 毎月二日氏神長田神社、同二十五日菅公舊跡勺の梅及び八幡宮に參拜し、氏神と氏子地との關係恰も木の根幹と枝葉とに於けるが如く、如何に大切なるかを知らしめ、此等敬神の精神を

普く知らしめ忠孝一體祭政一致の事を知らしむ。

十、保育案 保育細目に據り、保育案を作り之に依りて系統ある保育をなし、且之が實際を記入し意見を附し次の立案の参考とす。

十一、園歌 左記の園歌を制定し常に之を唱ひ、以て當園保育の精神を徹底せしむるに資す。

眞野の園生の幼兒を教へ育て、朝夕に句の梅と諸共に高き香りを傳へなむ

十二、獎勵 毎月皆出席し、且善行なる者に賞狀と賞品とを授與し、學期の終即ち保育修了の時に於て、成績優良にして善行なる者には、更に賞狀と賞品を授けて之を表彰し勤勉の素地を養ふ。

十三、心身訓練 毎月一回若くは二回身體發育狀況を調査し、其の園兒に適する遊嬉運動をなさしめ、個性の存する所を觀察し圓滿なる發育を期す十四、家庭連絡 時々修了兒の狀況を視察し又は園兒の家庭を訪問し家庭と連絡をなし家庭教育を補ひ且同園會を開きて已修了園兒の世話をなす。

毎月一回十六日に保育會を開催、園児の母姉を集め、當園の保育狀況を知らしめ家庭教育上の適切なる注意を與へ、實際の保育方法を會得せしめ、以て當園保育の主義を貫徹することに努力す。

十五、保姆養成 幼兒の保園は善良の保姆に依りて始めて其の完全を期するものなり、されば當園獨創の保育主義を實際に行ふに堪ゆるの良保姆を育成するの目的を以て之を附設し、講習生には書籍用具等は之を貸與し、更に數名の講師、教育學、教授法、兒童心理學、保育法等を教授せしめ、且毎日時間を選びて保育の實際を觀察せしめ或は之に當らしめ以て保育の方法を修得せしむ。

沿革の概要

當園は明治三十九年三月二十一日甫めて之が經營に着手し、同四十一年六月六日當町役員各位の贊成を得、東尻池兒童保育所として村役場跡に設置し、同月八日僅かに幼兒五名を收容して保育を開始せり、其の後漸次幼兒も増加し三十名に達する

に至りしを以て、同四十四年十一月十日組織を改め知事の認可を得て東尻池幼稚園と改稱す、同四十五年五月六日 教育勅語を下賜せられ大に面目を一新し、園運益々隆盛に赴き園児一百名以上を算し園舎狹隘を告げしかば、大正二年四月一日寶滿寺前に分場を設け幼兒三十名を收容す、同五年四月十三日獨立認可を得て役場跡を第一幼稚園と稱し、寺前分場を第二幼稚園と稱せり、同六年二月上旬創立十週年記念として園長私財を投じて寺前に新園舎を建築し、第一第二兩園の合併を行ひ東尻池幼稚園と稱せり、現在入園幼兒二百七十餘名の盛況を呈し、組數を分ちて六組とし、職員園長一名主事一名保姆八名世話係二名を以て之が保育の任にあたり、而して家庭と連絡の爲め毎月一回保育會を開き尙保育を完全ならしめんが爲め保姆養成所を附設し良姆を養成し、益々實績を擧ぐるに勉め大正六年六月六日十週年祝賀式を行ふ

(園長末正繁太郎氏報)

の一本白 年幼本白

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

定價

壹冊拾二錢 □半年 郵税共七拾五錢
 郵税壹錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報 婦人畫報
 族畫報 少女畫報
 日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
 振替東京四九〇〇

東京社

初めて入園した幼児に平易で適切な一

大正六年第一考案

花とり競争

定價金二圓五十錢

遊方

松竹梅、櫻、菊、楓の形を(板にて)八寸の大きさに切抜き、特有の色を以て彩色したるものを遊嬉室に配つて置いて一方で先生が大なる獨樂六角に削であつて右の六が現はしてありますを廻し止た時に現れた櫻が出れば櫻處へ速かに行た方が一番といふのであります、その間幼児は互に梅とか櫻とか好むところを唱へつゝ待て居るのであります、

教育的價值

沈着と敏捷、獨樂の止る瞬間には最も沈着にして正しく出たものを視分なくてはなりません

視分が付たなれば、最も敏捷に目的の處へ間違ぬ様に行かなくてはなりません

此處で視覺の練習にもなり同時に植物の名稱を覺る事が出來ます

東京九段

電話番町二九〇九
振替東京一九六四〇

フレーベル館

最も嗜好味多き運動器具